



# 日本風景街道登録 銀山街道 陰陽結ぶ 銀の道

ウォーキング & サイクリングマップ



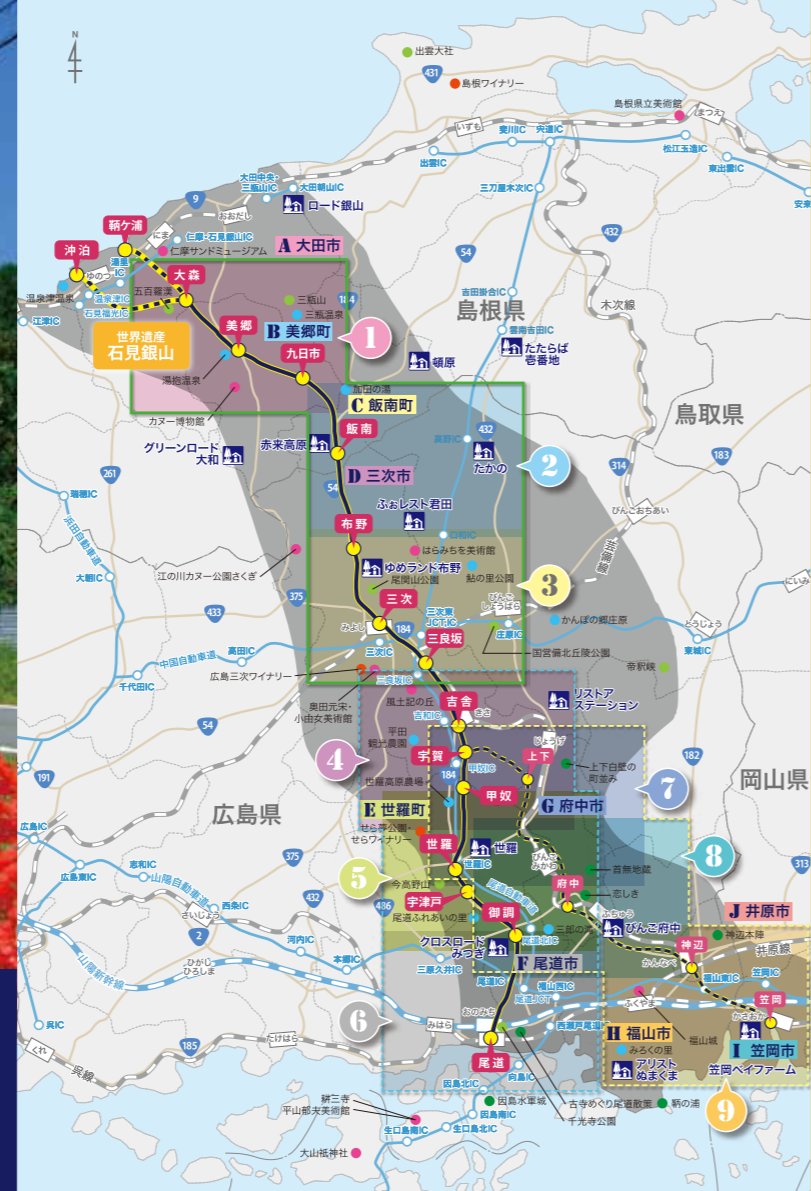
銀山街道沿線市町等連携協議会  
銀の道広域連携実行委員会

## 沿線地域の観光・施設に関するお問合せ

- A 大田市**  
(一社)大田市観光協会  
☎ 0854-88-9950
- B 美郷町**  
美郷町観光協会  
☎ 0855-75-1330
- C 飯南町**  
(一社)飯南町観光協会  
☎ 0854-76-9050
- D 三次市**  
(観光情報に関するお問合せ先)  
(一社)三次市観光協会  
☎ 0824-63-9268  
(銀の道に関するお問合せ先)  
三次市観光スポーツ交流課  
☎ 0824-64-0066
- E 世羅町**  
世羅町商工観光課  
☎ 0847-22-3216
- F 尾道市**  
尾道市観光課  
☎ 0848-38-9184
- G 府中市**  
府中市観光協会  
☎ 0847-43-7135
- H 福山市**  
福山市観光課  
☎ 084-928-1042
- I 笠岡市**  
笠岡市観光連盟  
☎ 0865-69-2147
- J 井原市**  
井原市地域創生課  
☎ 0866-62-8850

銀の道とは・・・  
現在の島根県大田市の石見銀山の中心地であった大森から、銀や鉱石を港に運ぶために利用されていた旧街道のことを言います。「銀の道」には、大森から日本海へ抜ける道と瀬戸内海へ抜ける道とがあります。日本海へ抜ける道は、「瀬ヶ浦道」と「温泉津沖泊道」、瀬戸内海へ抜ける道は灰吹銀を運んだ「尾道道」と運上銀を運んだ「上下・府中・福山道」がありました。大森から尾道の港へは、暮まで、牛馬300頭と人足400人という大輸送隊が3泊4日の行程で銀を運んでいたといわれています。

この事業は(一社)中国建設弘済会の助成を受けています。



**A 大田市**  
世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」

**B 美郷町**  
雄大な江の川と中国山地の豊かな自然

**C 飯南町**  
「日本一大しめ縄の町」大しめ縄創作館

**D 三次市**  
約450年以上の伝統を誇る三次の鞆餅

**E 世羅町**  
さまざまな花が咲き誇る広大な花観光農園

**F 尾道市**  
「箱庭的都市」尾道のまち並み

**G 府中市**  
明治創業の旅館をリノベーション「恋しき」

**H 福山市**  
江戸時代からの町並みの残る港町「瀬の浦」

**I 笠岡市**  
穏やかな海を歩く笠岡諸島の鳥めぐり

**J 井原市**  
近代木彫刻界の巨匠 田中美術館

〈凡 例〉

- 石見銀山街道
- 幹線国道
- JR在来線
- 新幹線
- 高速自動車道
- 道の駅
- 銀山街道エリア
- 癒す・遊ぶ
- 買う・食べる
- 見る
- 学ぶ・体験
- 歴史

## 拠点スポットのご紹介

ご注意ください！  
運行本数が少ない区間もございます。必ず事前に時間をお調べの上、お出かけください。

**大森 OMORI** 拠点 スポット 大森代官所跡

19km

大森代官所跡  
石見交通大森線 15分  
大田市立病院

大森代官所跡バス停下車  
JR大田市駅からバス有り(所要時間26分)

浜田自動車道大朝ICから1時間20分  
石見銀山世界遺産センター駐車場をご利用ください。(代官所跡までバス約7分)

大森代官所跡  
大田市大森町ハ51-1  
12/29～1/4・特別展の前後

熊谷家住宅  
龍源寺間歩

**美郷 MISATO** 拠点 スポット 美郷町役場

10km

美郷町役場前  
石見交通粕測線 20分  
九日市

美郷町役場前バス停下車  
JR大田市駅からバス有り

中国自動車道三次ICから50分

邑智郡美郷町粕測168  
土・日曜日・祝日(宿日直対応)

粕測(小原)まちあるき  
やなしお道

**九日市 KOKONOKAICHI** 拠点 スポット ふるさとのおち伝承館

9km

九日市  
石見交通粕測線5分  
酒谷  
徒歩6km  
赤名

九日市バス停下車  
JR大田市駅からバス有り

中国自動車道三次ICから40分  
大型車は駐車不可

邑智郡美郷町九日市  
12月～2月末

前川桜  
しゃくなげパーク

**飯南 IINAN** 拠点 スポット 道の駅「赤来高原」

17km

赤名  
備北交通赤名線 25分  
ゆめらんど布野

赤名バス停下車  
三次駅・たたらば番地からバス有り

中国やまなみ街道吉田掛合ICから30分  
中国自動車道三次ICから35分

飯石郡飯南町下赤名880-3  
毎週水曜日

赤名湿地  
赤名観光ぼたん園

**布野 FUNO** 拠点 スポット 道の駅「ゆめランド布野」

13km

ゆめらんど布野  
備北交通赤名線・作木線 15分  
三次小学校前

ゆめランド布野バス停下車  
三次駅からバス有り

中国やまなみ街道三次東ICより25分

三次市布野町下布野661-1  
11月～2月の第2・4火曜日 1/1・1/2

中村憲吉記念芸文館  
君田温泉 森の泉

**三次 MIYOSHI** 拠点 スポット 辻村寿三郎人形館 (三次市歴史民俗資料館)

MAP II へ続く  
MAP III 甲奴へ

三次駅からJR福塩線 55分  
中国やまなみ街道(三次東IC～甲奴IC) 経由 35分

JR三次駅から徒歩20分  
三次小学校前バス停下車 徒歩5分  
三次駅からバス有り  
中国やまなみ街道三次東ICより10分

三次市三次町1236  
毎週水曜日(試行中・祝日の場合翌平日) 年末年始

尾関山公園  
鳳源寺



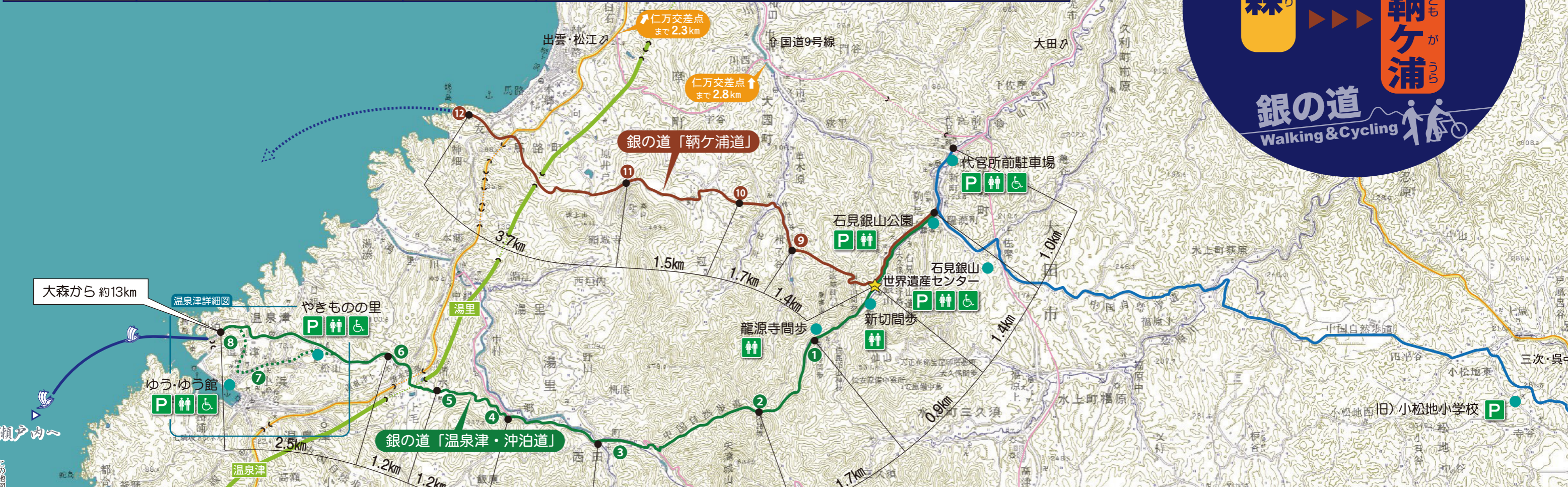
- ①龍源寺間歩** (りゅうげんじま歩)  
観光用に公開されている坑道跡。この間歩は江戸時代初期に開発されたもの。岩壁にノミ跡が残っている。
- ②降路坂** (こうろざか)  
降路坂の峠には1940年代まで茶店があり、甘酒や茶菓子が売られていた。地藏様が祀られていたという台座が今も残っている。
- ③瑞泉寺**  
瑞泉寺12世「自願師」が吉野葛の製法を伝え、「西田葛」の名声はますます高まった。街道を行く旅人の土産として重宝されていた。
- ④石畳の古道**  
西田から清水に向かう山道に古い石畳が残っている。この道は温泉津港からの物資輸送路として、尾道道開発後も利用された。
- ⑤清水の金柄杓** (かみびしやく)  
その昔、泉の水の美味しさに感心した大森代官が金属製の柄杓を奉納し、このように呼ばれるようになった。
- ⑥松山の道標**  
産業道路とつながる分岐点に、福光石で造られた古い道標が残っている。「右銀山大森・いづも大社」と刻まれている。
- ⑦内藤家住宅**  
町並み保存地区で最大級の商家建築。江戸時代後期に酒造を営むかたわら、庄屋を務めた往時の様子が屋敷構えに残る。
- ⑧鼻ぐり岩**  
毛利氏支配時代は温泉津沖泊が銀積出港だった。いまでもたくさんの鼻ぐり岩(船を係留する岩)を目にすることができる。

大森

温泉津 鞆ヶ浦

銀の道

Walking & Cycling



- ⑨永久鉱山周辺**  
1887年(明治20年)に発電所が建てられ近代的な工場が整備された。現在は周辺に鉱夫長屋跡、煙道跡などが残る。
- ⑩鞆ヶ浦道の土橋**  
山間部と海岸寄りの2か所に土橋が連続しており、山間部は幅広で高さが低く、海岸寄りには幅は狭いが高さが高くなっている。
- ⑪口屋峠**  
この峠(293m)から秀麗な三瓶山(1126m)と日御碕を同時に望むことができる。かつて街道を行き来した人々も、眺望を楽しんだであろう。
- ⑫鞆ヶ浦周辺**  
細い坂道に沿うように家が立ち並び、かつて番所もあった。港周辺では鼻ぐり岩を見ることができる。解説案内の施設「鞆館」がある。

凡例	
<span style="color: green;">—</span> 大森～温泉津ルート	<span style="color: red;">—</span> 大森～鞆ヶ浦ルート
<span style="color: blue;">—</span> 大森～尾道ルート	<span style="color: green;">●</span> 主な施設
道標・石碑	P 駐車場・駐車可能場所
常夜灯	トイレ
地藏・石仏	トイレ(車いす可)
社堂・祠	レストラン・食堂

「銀の道」の大部分は地域の皆さんの生活道路です。交通法規を守り、迷惑運転にならない様、注意して運転してください。一部は、時期によっては草木の生い茂る箇所も有ります。

複製不許可

# 華やかなりし銀山の繁栄と、 相反する険路に触れる。

- 1 大森代官所跡
- 2 代官所前駐車場
- 3 旧河島家
- 4 石見銀山公園
- 5 石見銀山世界遺産センター
- 6 荻原(おぎわら)千軒
- 7 井戸平左衛門碑
- 8 箱茂(はこも)のお松
- 9 別府公民館駐車場
- 10 湯抱温泉
- 11 鴨山記念館
- 12 小原の本陣跡
- 13 カヌーの里
- 14 幕末の頃の本陣

## 路上にて 祝!!「やなしお道」「森原古道」国史跡指定

やなしお道には7か所の土橋と一里塚があり、施工者の遊び心が感じられる綺麗な円弧を描いている土橋もある。一里塚は古地図に表記され、切り込みに小字名があり、塚が左右に残っている珍しいものだ。



**1 大森代官所跡**  
江戸時代、幕府は石見銀山を直轄支配し大森に奉行所(後に代官所)を置いた。現在は石見銀山資料館となっている。

**3 旧河島家**  
河島家は銀山附役人として代々銀山経営や銀山領内の支配にあたった。1800年初頭に建てられた屋敷は武家住宅の特徴をよく残している。

**5 石見銀山世界遺産センター**  
石見銀山の歴史や鉱山と暮らしたの学習施設。ガイドンスコーナーや遺跡立体模型、遺跡クイズなど、より深く石見銀山を体感できる。

**7 荻原(おぎわら)千軒**  
ここは銀輸送隊最初の休憩地で、当時は宿場町として栄え、多くの家並みが連なっていたことから「荻原千軒」と呼ばれるほどであった。

**9 井戸平左衛門碑**  
第19代大森代官「井戸平左衛門」は、飢饉時の作物として栄え、多くの命を救った。周辺の町村には感謝の碑が多く建てられている。

**11 小原の本陣跡**  
輸送隊は小原で馬替えと昼食休憩をする。ここは江の川舟運と銀山輸送路の交点となる要衝の地。本陣跡もある。

**13 カヌーの里**  
街道は江の川から別れ、支流の沢谷川に沿って飯南に向かう。県道と並行して当時の道筋が山側に残っている。

**2 熊谷家住宅**  
町並み保存地区で最大級の商家建築である「熊谷家住宅」は、重要文化財となっている。有力商人の地位や生活の変遷がわかる。

**4 五百羅漢**  
五百羅漢像には島根を代表する石材・福光石が使われている。これは淡い青緑色の軟質凝灰岩で、古くから石仏、灯籠、墓石に利用されてきた。

**6 梅雨左衛門の碑(つゆざえもんひ)**  
由来は定かでないが、昔から「腰から下の病」に霊験があると言われ、今でも参拝者が絶えない。

**8 箱茂(はこも)のお松**  
銀の道はここから美郷町に入る。この松の下は、道行く人の休憩場所として親しまれた。2代目が枯れ、現在は3代目が植栽されている。

**10 鴨山記念館**  
大正期の歌人、斎藤茂吉は、研究の末、美郷町湯抱鴨山を柿本人麻呂の終焉の地と定めた。当館は氏の研究資料を展示している。

**12 幕末の頃の本陣**  
江戸時代の終わり、大森に赴任する代官は林家に宿泊した。当時の佇まいを残し、旅館「亀遊亭」として現在も引き継がれている。

**14 石原の古道**  
街道は江の川から別れ、支流の沢谷川に沿って飯南に向かう。現在では、農道として拡幅・舗装されている。

**凡例**

- 銀の道 (青い線)
- 銀の道(サイクリング) (赤い線)
- 主な施設 (緑い線)
- 拠点スポット (丸いアイコン)
- 駐車場・駐車可能場所 (P)
- トイレ(車いす可) (T)
- トイレ (T)
- レストラン・食堂 (R)

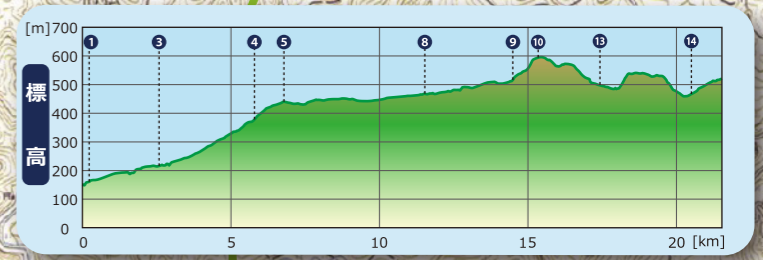
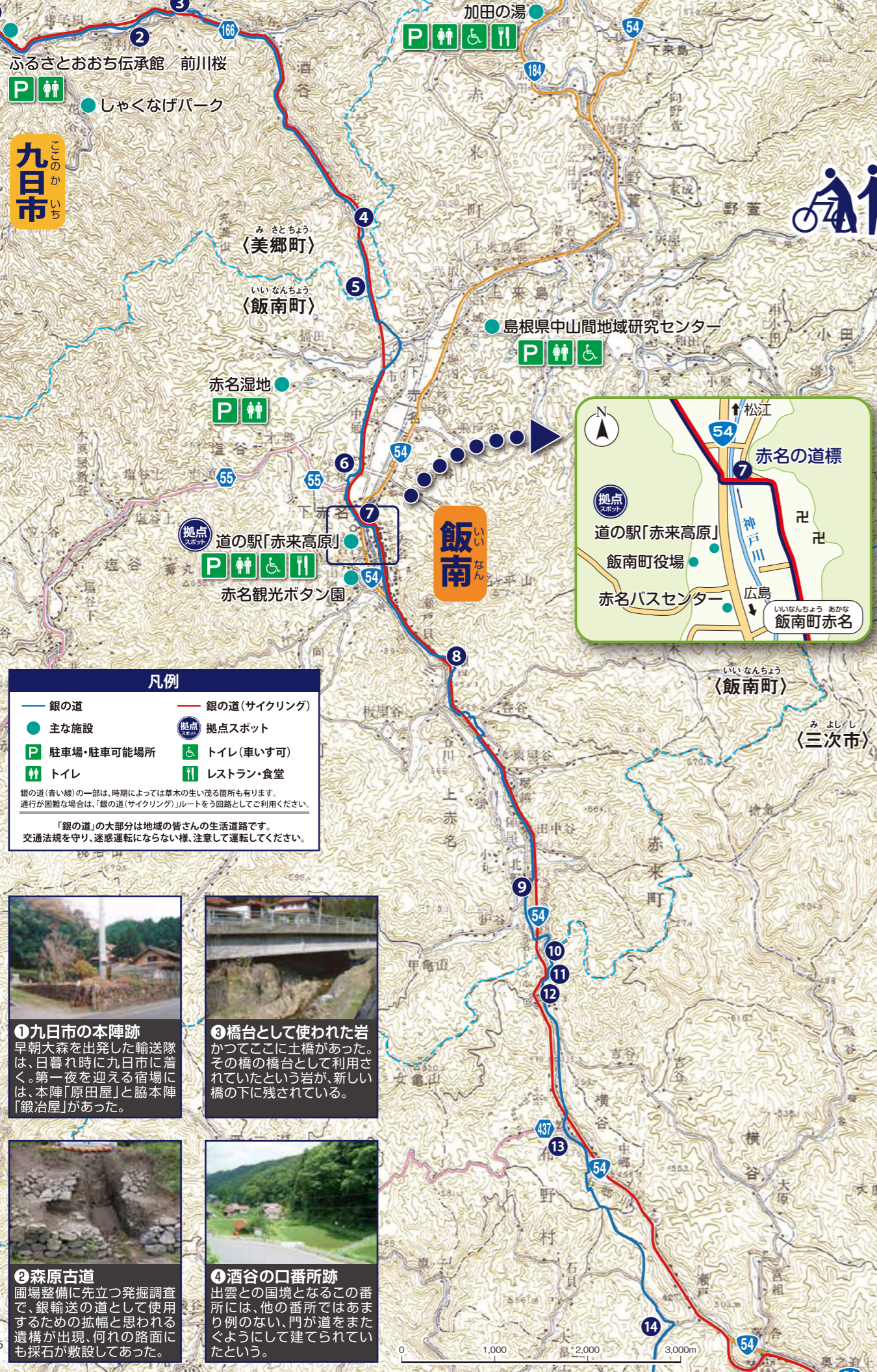
銀の道(青い線)の一部は、時期によっては草木の生い茂る箇所もあります。通行が困難な場合は、「銀の道(サイクリング)」ルートをご利用ください。

「銀の道」の大部分は地域の皆さんの生活道路です。交通法規を守り、迷惑運転にならない様、注意して運転してください。

**JR三江線**  
広島県の三次駅と島根県の江津駅の間を、「江の川」に沿って結んでいた路線。2018年3月末をもって廃止となった。  
※地図内には三江線の表記が残っている部分がありますが、ご利用いただけませんのでご注意ください。

九日市まで約1km

激しい合戦と厳しい国境越えは、文学のみちにつながる。



凡例

銀の道	銀の道(サイクリング)
● 主な施設	● 拠点スポット
P 駐車場・駐車可能場所	♿ トイレ(車いす可)
♿ トイレ	🍴 レストラン・食堂

銀の道(青い線)の一部は、時期によっては草木の生い茂る箇所も有ります。通行が困難な場合は、「銀の道(サイクリング)」ルートをご利用ください。

「銀の道」の大部分は地域の皆さんの生活道路です。交通法規を守り、迷惑運転にならない様、注意して運転してください。

**①九日市の本陣跡**  
早朝大森を出発した輸送隊は、日暮れ時に九日市に着く。第一夜を迎える宿場には、本陣「原田屋」と脇本陣「鍛冶屋」があった。

**③橋台として使われた岩**  
かつてここに土橋があった。その橋の橋台として利用されていたという岩が、新しい橋の下に残されている。

**②森原古道**  
圃場整備に先立つ発掘調査で、銀輸送の道として使用するための拡幅と思われる遺構が出現、何れの路面にも採石が敷設してあった。

**④酒谷の口番所跡**  
出雲との国境となるこの番所には、他の番所ではあまり例のない、門が道をまたぐようにして建てられていたという。

**⑤境木**  
出雲の国と石見の国との国境を示す標木。1826年に立て替えたという記録もある。傷みがひどく朽ちていたため、2006年に復元された。

**⑦赤名の道標**  
銀の道は赤名で出雲大社への参詣道として整備された出雲街道と合流する。街道脇には、1856年代に建てられた道標が残っている。

**⑨北野の馬頭観音**  
街道は、いよいよ赤名峠にさしかかる。その坂の口に、旅人の行路安全を祈る馬頭観音が残されている。

**⑩熊地蔵**  
かつて毛皮や肉を得るために殺した熊を供養したものという伝承があるが、図像は鬼子母神のように見える。詳しい事は不明である。

**⑬升屋**  
伊能忠敬が1811年第7次全国測量の折に、ここに宿泊した。当時の宿の主人は三次まで買い出しに行き当時としては盛大なもてなしを行った。

**⑥京楽院**  
戦国時代、真言宗布教のために訪れた権大僧都京楽院徳有は、尼子・毛利の戦で苦しむ多くの村人たちを救ったと伝えられている。

**⑧瀬戸の一里松跡**  
広島と松江の中間点にあたる瀬戸には一里松があった。松くい虫被害のため切り倒され、今は民家の裏にその切り株が残っている。

**⑩赤名峠**  
出雲国と備後国との国境で昔から難所として知られていた。当時の街道は赤名側の国道54号を斜めに横切る急坂であった。

**⑫万右衛門の墓**  
魚売りの万右衛門が磯五郎に殺され金を奪われた事件は、現場が藩境で天領にもからみ、解明が難しかったという記録が残っている。

**⑭ついもん祠**  
これと同じ伝承を持つ「梅雨佐衛門」という若が、大森にもある。当時の幹線道沿いにあることから、大森から伝わったものかもしれない。

この地図は、国土地理院長の承認を得て同院発行の5万分1地形図を複製したものである。(承認番号:平30-444、第575号)

布野



# 陰陽の交易拠点で栄えた 商都の面影を追う。

# 3

布野

三次

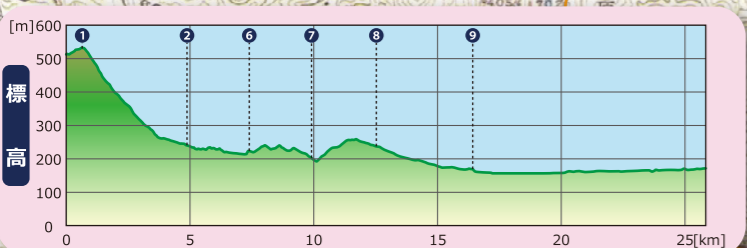
銀の道

Walking & Cycling

路上にて

## うだつのあがる三次・本通り☆

「うだつがあがらない」という慣用句があるが、三次市の旧中心街「みよし本通り商店街」には数多くの卯建（うだつ）があがっている。卯建は隣家の火事除けに設けられたものだが、昭和初期までは商家繁栄のシンボルでもあったという。本通りの町家の軒を見ると、本卯建や袖卯建、袖壁や屋号の趣を味わえ、商都として発展した面影を感じる。2005年に国土交通省の夢街道に認定され、道路の石畳化や電線の地中化など、歴史的街並みの再生も行われている。



**1 仏ヶ崎**  
川沿いの木立の中を登っていくと開けた峠に出る。古い石仏と牛馬観音が建っている。ここから先の布野の道は全て下り道である。

**3 布野の宿**  
瀬戸内と山陰を結ぶ広島藩最北の宿駅で、陰陽交通の要衝として早くから町が形成されていた。当時の道筋が市街地に残っている。

**5 松雲寺の五輪塔**  
松雲寺には、1322年建立の五輪塔がある。銘のある五輪塔では広島県最古のもので、県重要文化財に指定されている。

**2 常夜燈**  
上布野の街の入り口にある常夜燈。旧出雲街道の標識に沿って備後最北端の布野宿に、江戸時代のルートで入っていく。

**4 中村憲吉記念文芸館**  
布野町出身の中村憲吉の書簡や歌集、掛け軸などを展示。アラギ派歌人の著作を集めたコーナーを設けた布野図書館が隣接する。

**6 下布野の道標**  
かつて下布野一帯は湿地帯であり、沼地をさけるため、街道はこらあたりから山に入り、三次の山家地区へと向かう。

**7 神之瀬川の渡し**  
渡しをこえた三次の山家に、神之瀬原という所があり、川が増水して渡れない時、各地の神主が来て祈ったという話が残っている。

**三次**

三次市役所  
三次市交通観光センター  
三村寿三郎人形館  
奥田元宋・小由女美術館  
広島三次ワイナリー

凡例

— 銀の道	— 銀の道(サイクリング)
● 主な施設	● 拠点 拠点スポット
P 駐車場・駐車可能場所	♿ トイレ(車いす可)
♿ トイレ	🍴 レストラン・食堂

銀の道(青い線)の一部は、時期によっては草木の生い茂る箇所も有ります。通行が困難な場合は、「銀の道(サイクリング)」ルートをご利用ください。

「銀の道」の大部分は地域の皆さんの生活道路です。交通法規を守り、迷惑運転にならない様、注意して運転してください。

**8 山家一里塚**  
広島藩が、1633年から藩内の街道を整備した。この時設置された一里塚があり、東側は家の遺構が比較的良好に現存している。

**10 三次の道標**  
三次は諸街道の分岐点。古い道標には「左八ひろしま、右八出雲大社」と書かれていて、東側は家の遺構が比較的良好に現存している。

**9 稲生武太夫の碑**  
江戸時代に、旧三次藩内に暮らす「稲生平太郎(のち武太夫)」が、三次で出会った奇想天外な「物怪話」の物語が残されている。

**11 頼吉坪役宅(運甃居)**  
「頼山陽」の叔父「頼吉坪」が、奉行であった頃に使った家。常に戦いに備え資材の準備を怠らないという中国の故事から名づけられた。

この地図は、国土地理院の承認を得て、同院発行の5万分1地形図を複製したものである。承認番号平30第575号